

弘前大学医学部附属病院で診療を受けられる皆様へ

本院では、下記の研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、情報を研究目的に利用されることを希望されない患者さんもしくは患者さんの代理人の方は、下記の連絡先までお申し出ください。

1. 研究課題名	消化器癌に対する組織透明化法を用いた三次元的病態解析		
2. 対象患者	当施設で消化器癌に対し手術治療を実施された患者様		
3. 対象となる期間	2018年1月1日 ~ 2023年12月31日		
4. 実施診療科等	消化器外科,乳腺外科,甲状腺外科		
5. 研究責任者	氏名	小笠原 宏一	所属 弘前大学大学院医学研究科 消化器外科学講座
6. 共同研究機関 (共同研究機関研究責任者)	なし		
7. 研究の意義	<p>組織透明化法は、対象とする病理組織(切除された癌などの組織)を透明化し、蛍光免疫染色によって三次元的な観察を行う方法です。これまでの一般的な病理標本では4μmの厚さで二次元的な観察を行っていましたが、組織透明化法を使用することで50~200μmの範囲で、三次元的な観察を行うことが可能となります。消化器癌組織の観察において、癌そのものの進展形式を解析するにとどまらず、リンパ管や血管、神経への浸潤形式について広範囲かつ立体的な観察を行うことで、転移や再発を生じるメカニズムの解明が可能になると考えられます。</p> <p>また、消化器癌に対する根治的治療は手術治療ですが、現在では化学療法(抗がん剤)、放射線療法を追加した集学的治療(異なる治療を組み合わせることで、癌に対する治療効果を高める方法)が確立されています。そのような治療には、癌細胞だけでなく、腫瘍間質、脈管等の相互作用が深くかかわっています。そこで、いままでの病理標本(二次元)では明らかにできなかった、基礎的な癌組織の構造の解明に加え、腫瘍間質、脈管との相互作用を三次元で詳細に解析することで、集学的治療によって癌組織にどのような変化が生じ、効果を発現するかを検討することが必要です。</p> <p>2018年1月から2023年12月の間に当施設で消化器癌手術を施行された患者様を対象とし、病理標本から患者様の診療に影響がない範囲で癌組織を採取、透明化処理し三次元的な構造解析を行います。消化器癌の病態解明をすることで今後の診療の発展および患者様の予後向上に寄与できると考えます。</p>		
8. 研究の目的	組織透明化法を用い、消化器癌の基礎的構造や発育形式、転移および再発のメカニズムの解明を行います。また、集学的治療によって癌組織にどのような変化が生じ、効果を発現するかを検討し、今後の消化器癌に対する研究および診療の発展に寄与することを目的といたします。		
9. 研究の方法 (使用・提供する資料等および外部に提供する場合の方法等)	本研究では消化器癌に対する手術治療を施行された患者様の病理標本を使用し研究を行います。標本のうち、病理診断など患者様の診療に影響しない範囲で癌組織の一部を採取、透明化処理し、三次元的構造解析を行います。その他に、診療録から、病歴、年齢、性別、身長、体重などの臨床所見、各種検査所見、画像所見、手術所見、術式、合併症などの手術関連情報、術後経過、予後などの情報を収集し解析を行います。		
10. 個人情報の保護	患者様個人が特定される情報を収集することはありません。研究結果は学会等で報告されますが、個人が特定される情報を公開することはありません。拒否の申し出があった場合は研究対象から除外しデータを削除いたします。ただし匿名化の上で解析済みの場合や研究結果公表済みはデータを修正することはできませんのでご了承ください。		

11. 利益相反に関する状況	<p>本課題の研究代表者が所属する講座では、(株)ヤクルト本社、中外製薬(株)、アステラス製薬(株)、大鵬薬品工業(株)から寄附金を受領しており、利益相反状態にあります。これらは本課題の資金源ではなく、研究は講座の研究グループによって公正に実施されます。本研究の利益相反状態については、弘前大学大学院医学研究科医学研究(臨床研究等)利益相反マネジメント委員会の審査を受けています。</p>		
12. 連絡先	弘前大学大学院医学研究科 消化器外科学講座 小笠原 宏一		
	電話	0172-39-5079	FAX 0172-39-5080